

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会

アップダウン連続の谷急山



谷急山本峰(P2から)



P2付近のクサリ場

5月中旬、裏妙義・谷急(ヤキュウ)山(1162m)に出かけた。妙義山塊の最高峰である。横川から妙義荒船スーパー林道を走って今夜の宿・国民宿舎「裏妙義」の駐車場に車を置き、10時出発。林道を5分程歩いた後、中木川を左岸に渡渉した所から登山道が始まる。風の通らないジメジメした谷の中の登りである。気がつくやうに、足のスネにヒルが何匹も吸いついている。靴を伝って這い上がって来たらしい。慌ててスパッツを出して足首を重武装した。

ガイドブックによれば、谷急山本峰までにピークが7個あるとのこと。木の根や岩角にすがり、時にはクサリに頼りながらのキツイ登り下りが延々と続く。時折り出くわすツツジが目には鮮やかである。もう盛りは過ぎてているが、様々な色彩のツツジのオンパレードが楽しい。幾つピークを越えたか数えきれないが、最後に何とも悪相のキレットを



山頂から望む表妙義のギザギザの岩峰



見下ろす新緑の海(三方境で)

11時45分、ようやく明るい尾根筋に出て、小広い三方境とか



P1への登り

いう広場に座り込んで30分の昼食休憩をとった。足下に見下ろす沢筋全体が新緑に埋まり、眼の洗われる思いのひと時だった。次は尾根筋を左に取り、谷急山に向かうヤセ尾根。急登降の連続である。

越えてやっと14時、谷急山山頂に到着した。狭い山頂には眺望を楽しむ先客数人。もう午後のモヤで遠望は望めないが、表妙義の特徴ある岩峰の形がそれと確認できた。15分程の山頂滞在の後、往路と同じ稜線を引き返す。急な登下降に一步一步慎重に時間をかける。15時半、三方境の手前で稜線を外れて右に入る女道ルートを見つけ、これを下ことにした。急な沢の中、30~40cm程も厚く散り積もった落ち葉を膝押しでラッセルしつつ駆け下りる。めったにない爽快な直滑降だった。16時、谷急沢の沢底に到着。後はケルンを頼りに、飛び石伝いの渡渉を繰り返しながら沢をどンドン下り、丁度17時、国民宿舎に帰り着いた。そして入浴の後、地元のコンニャク料理での一杯はまさに極楽。